

● 議事概要

「令和4年度羽田空港の機能強化に関する都及び関係区市連絡会 分科会（第4回）」

令和5年2月15日（水）

● 議題1 騒音対策について

【国の説明】

（国交省航空局）

資料1は、11月、12月分の北風、南風の運行状況についてである。冬場に近づいているため、北風の運用が全体的に多くなっている。北風時のC滑走路からの離陸について、11月は3,387機である。南風時の到着機については、A滑走路が103機、C滑走路が232機である。南風時のB滑走路からの離陸は163機である。12月は、北風時C滑走路離陸が3,373機である。南風の着陸については、A滑走路91機、C滑走路が194機である。南風時のB滑走路の離陸については142機である。下段に前々月の数字についても参考に記載しているが、11月、12月トータルで見ると、北風が優位だったことが見て取れる。

資料2は、11月、12月の北風、南風の運用割合についてである。左側に11月、12月の実績、右側に住民説明会でご説明させていただいた際の過去3年間の平均値を示している。11月、12月トータルで見ても北風が優位であり、住民説明会で説明した傾向と概ね同じである。11月の午前中に限っては、過去3年間の平均よりは若干南風が多かったが、トータルで見ると、概ね住民説明会でご説明した通りの北風、南風の割合であった。

資料3は、11月、12月の飛行航跡図を重ね合わせたものである。概要にも記載している通り、本経路図は管制用のレーダーから1分に1回、データをコンピューター処理し、想定される飛行経路に重ね合わせたものである。2ページ目は、北風時のC滑走路離陸の航跡である。夏場に比べ、大気が安定していることもあり、大きな逸脱は確認されていない。資料に記載している通り、悪天回避もしくは、管制間隔の設定に必要であったため、想定経路から若干外れている部分が見て取れるが、基本的には想定内の経路を飛行している。3ページ目は、B滑走路からの西向き離陸についてである。先ほどご紹介したように、この11月、12月は北風が多く吹いていたため、B滑走路からの西向き離陸数は少ない。11月、12月トータルで見ても、全てが想定経路の範囲内を飛行している。4ページ目は、南風時のA滑走路、C滑走路の到着経路である。左から10月、11月、12月の航跡である。12月に関して、図内右上の紫色のC滑走路の到着経路に関して、最終進入に入る前の段階では、天気の関係で、悪天を避けて、想定経路より北側から入ってくる飛行機が若干見られる。しかしながら、空港に近い着色部においては、毎月同じように、想定された飛行経路を通して着陸している。

資料4は、羽田空港新経路にかかる航空機騒音の測定結果についてである。まず全体総括

である。今回は、昨年の11月、12月期の2か月分の期間における騒音測定の結果を取りまとめた。機体サイズ別の実測値の平均と推計平均値を比較したところ、11月においては約87%、12月においては約80%が推計平均値と同等またはそれ以下であることを確認している。それに加え、騒音対策として実施している着陸時の降下角の引き上げによる騒音軽減効果についても継続的に確認している。最後に留意事項であるが、復便は堅調に進んでいるものの、コロナウイルスの影響があり、引き続き、計画していたものよりも運航便数が少なく、機材構成も流動的である。更には、前回は9月、10月の秋であったが、今回の冬期になるとさらに南風の運用割合が少なくなり、都心上空の騒音測定回数が少なくなっている点にも留意が必要である。2ページ目は昨年11月、12月期の騒音の実測値と推計平均値の比較である。19個の測定局が並んでいるところ、まず上2つの江戸川区、江東区における北風時の騒音状況については、昨年度の11月、12月期と同等の傾向となっている。3つ目以降が、南風時の騒音関係である。3番目と4番目の川崎と大田区については、南風時の離陸騒音である。こちらについては、資料2でご説明した通り、2021年の11月、12月と比べて、今回の2ヶ月は南風の実績が少なく、騒音の母数のサンプル数も少なくなっているため、どうしても統計上、上振れ下振れするものが出てきている。同じく、川口市以降の南風時の都心上空の着陸の騒音状況についても、ちょうど1年前の実績と比べて、今回は実績が少ない。冬季はどうしても南風の便数が少なくなる傾向があるため、騒音の傾向については通年でしっかり確認して参りたい。3ページ目以降は、11月、12月期における、それぞれの測定局別の傾向をまとめている。41ページ目以降は、高度引き上げによる騒音軽減効果の状況である。こちらは図に示している様に、都心上空の南風着陸時のルートのうち、高度引き上げによる着陸高度に差が出てくる赤文字の測定局を中心に確認をしている。42ページ目で言及している通り、天候が良い時は基本的に衛星を使ったRNP運用で3度より大きい降下角で着陸をしている状況である。一方で、航空機からの視程が悪かった場合などについては、安全に運行ができる範囲内で、3度のILSを使った降下角の着陸を実施している。下のグラフの0.0のラインは3度で降下した場合の騒音値、それに対して3度より大きい角度で降下した航空機の騒音がどの程度低くなったのかを青いグラフで示している。全体としてマイナス2.2デシベルからマイナス0.3デシベル程度の騒音軽減効果が出ている。広尾中学校、八潮ポンプ、産業技術高専の3つの測定局については経路直下ではなく、A滑走路とC滑走路の着陸経路の間にあるが、経路の側方に位置するこれらの測定局においても、高度引き上げによる騒音軽減効果を確認している。43ページはより詳細に分析を行ったものである。図の中でCのラインで表している降下角3度で降下したものを0.0とし、それに対して二段階降下の時の騒音軽減効果について水色で、降下角3.45度で降下した時の騒音軽減効果について濃い青で示している。いずれの測定局においても、騒音軽減効果が出ていることを確認できている。

● 議題2 安全対策について

【国の説明】

(国交省航空局)

資料5は、部品欠落の報告についてである。本資料では、昨年10月、11月の部品欠落の重量別、部品別の割合を示している。部品欠落報告制度については、羽田空港を含む、国際線の就航の多い全国の7空港にて実施しており、10月、11月の2か月間において部品欠落が報告された件数は7空港全体で197個であった。ほとんどが100g未満、6割以上が10g未満である。2つのグラフのうち、左側が重量別の割合、右側が部品別の割合を示している。月によって若干の変動はあるが、従前と同じような内訳となっている。落下物防止対策基準に則り、航空会社、航空局一丸となって、落下物ゼロを目標にしている。引き続き落下物防止対策の取組を、エアライン、当局ともに進めて参りたい。下段には参考情報として、部品欠落についての補足説明及び大まかな重さを示している。

● 議題3 その他

【国の説明】

(国土交通省)

資料6-1は国に寄せられた問い合わせ状況についてである。11月、12月に国土交通省およびコールセンターに寄せられた受電件数を一覧にまとめている。11月、12月に関しては、先ほど運用状況で報告した通り、比較的北風運用が多かったこともあり、到着機に関するお問い合わせ等は以前の月に比べると若干減っている。9月、10月分の件数も参考に記載しているが、冬場で北風運用が多いものの、全体的な件数はこの時期に関しては少ない傾向である。荒川沿いの出発経路については引き続き、お問い合わせをいただいている。内容については、騒音や落下物、減便下では従来経路でもいいのではないのかといったご意見を伺っている。資料右下には問合せ状況に係る赤い折れ線グラフを示している。運用開始以降、徐々にお問い合わせの件数は減ってはいるが、一定数は常にご意見を伺っている状況である。

【都の説明】

(東京都)

資料6-2は都に寄せられた意見についてである。11月、12月分にあったご意見は、11

月が3件、12月が4件の、合計7件で、9月、10月の意見数に比べて半数程度であった。主な意見としては、騒音が3件、撤回改善要求が1件、安全性が1件、健康被害に関するものが1件。その他が4件であった。内容については、飛行機の離陸方向についての問合せや飛行機やヘリコプターの騒音が大きい、羽田空港の離発着に東京都の上空を飛ばすことは時代に逆行している、などの意見をいただいている。

【関係区の主な発言】

（中野区）

区長あての要請書の提出があったので共有する。内容に関して、1点目は、都心低空飛行ルートに関する教室型説明会の開催についての要請、2点目は、新ルート変更の検討結果をいつまでに示せるかを明らかにするべきとの要請であった。区からは、従前より様々な媒体・形式による広報や説明会の実施について要望しているが、今後も様々な機会を通じて、情報提供や説明をお願いしたい。また、羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会における検討の状況についても、固定化回避の検討結果やスケジュールなどの新たな情報については速やかにご提供をいただくようお願い申し上げる。

（国交省航空局）

羽田新飛行経路については、丁寧な情報提供を行う観点から、新飛行経路運用前から幅広い広報活動を実施している。具体的には、経路下地域へのチラシの配布や、ホームページによる情報提供などによる、羽田新飛行経路の運用状況や新飛行経路の固定化回避に向けた取組状況の周知、専用の電話窓口やホームページなどによる、地域の皆様からのご質問、ご意見の受付・回答等を実施している。今後も引き続き、新飛行経路の運用に関し、情報提供を適切に行うとともに、様々なご意見に耳を傾け、丁寧に対応して参る。また、固定化回避についても、2022年8月に開催された検討会での議論等を踏まえ、引き続き、安全性評価などの取組を鋭意行っている。これらの取組について、2023年夏から秋頃に次回検討会を開催し、その成果をご報告できるよう、必要な取組を着実に進めて参る。

（品川区）

環境軽減に向けた取組を引き続き宜しくようお願い申し上げるとともに、更なる取組についてご検討いただき、常に安全対策、落下物軽減に向けた取組を進めていただきたい。また、固定化回避の内容については、区民の方も関心が高いので、一刻も早く、具体的な取組や検討会の結果、取組の方向性を、区民に分かりやすい形で丁寧に提示していただきたい。

（国交省航空局）

安全対策と騒音対策については、引き続きしっかり取り組むとともに、適宜改善や見直しを検討していきたい。固定化回避検討会については、今まさに安全性の評価を行っている。

作業項目は大変膨大なものであるが、局の総力を挙げて、一生懸命取り組んでおり、できるだけ速やかに方向性についてご報告できるよう努めて参りたい。

以上